

(3) 今後の地区整備の課題

ここでは、「(1) まちづくりを取り巻く状況の変化」と「(2) これまでの取組実績と効果」を踏まえて、現在進められている事業や予定されている事業等との連携を念頭に、今後の地区整備の課題を整理します。

(1) まちづくりを取り巻く状況の変化

(社会情勢の変化)

目黒区においては、目黒区人口等予測（人口減少）への対応をはじめ、子育て支援ニーズの増大、地方分権・住民や事業者等との協働、安全・安心に対する関心の高まり、地球的規模で広がる環境悪化、老朽化する区有施設への対応などへの取組の必要性が高い。

(上位計画への対応)

少子高齢化、安全・安心、地球温暖化、地域活性化など時代状況を映し出した緊急の課題に的確に取り組み「住みたいまち、住み続けたいまち目黒」の実現を図るとともに、基本構想で示した「ともにつくる みどり豊かな 人間のまち」を目指す。

(地区の状況の変化等)

- 人口は微増傾向にあるものの、将来は減少が予測されている。
- 高齢化が進む一方、目黒区全体が 40～44 歳が最も多い構成に対し、地区の人口構成は、30～34 歳が最も多い。
- 地区全体の土地利用に大きな変化はないものの、目黒区の傾向と同様、集合住宅用地の増加がみられる。
- 地区内において空家等の可能性が高い建物のうち約 3 割が約 9 ヶ月後には更地や建替え、新たな居住が確認されており、不動産価値や市場流動性が高いといえる。
- 年間商品販売額は、自由が丘駅周辺に次いで第 2 位となっているものの、販売額や店舗数は減少している。
- 学芸大学駅の 1 日の乗降客数は約 8 万人で増加傾向にあり、駅周辺は多くの人々の往来がある。
- 駅周辺は、高架下の駐輪場整備により放置自転車が 1/3 程度に減少したものの、依然として放置自転車数が存在するため、歩行の妨げとなっている。
- 商店街を中心としたルールに基づく押しちゃりなどのソフト面での取組が継続的に実施されている。
- 交通事故の件数などが減少している。

(2) これまでの取組実績と効果

○東急東横線高架橋の耐震補強工事とこの工事とあわせた高架下の駐輪場整備や商業環境整備、駅コンコース内や駅前広場の舗装改良などが行われ、これらの整備により、放置自転車数の減少、駅前空間の安全性・景観性の向上といった効果がみられる。

○交通安全対策を『あんしん歩行エリア形成事業計画』に位置づけて、事業の実施を段階的に進めており、これらの整備により、事故件数の減少といった効果がみられる。

○旧六中跡地の土地利用転換により、スマイルプラザ中央町が開設され、保育園や特別養護老人ホームの整備など、福祉機能の向上がみられる。

○商店街が中心となった『学芸大学街づくりの会』において、商店街の道路上の放置自転車や押し歩きなどの自転車利用、看板や商品の道路へのはみ出し抑制、景観配慮などを記した「学大商店街ルール」を作成し、ルールに基づく具体的な取組を実践しており、駅コンコース内では、自転車利用者の約8割が自転車の押し歩きを実践するなど、効果がみられる。

(3) 今後の地区整備の課題

学芸大学駅周辺地区は、基盤整備がある程度終了した成熟した市街地であり、賑わう商店街やみどりの多い閑静な住宅地、碑文谷公園などは、依然として学大ブランドと言えます。

また、学芸大学駅を中心として、多くの人で賑わう商店街があり、4本の主要な道路で囲まれた地区内は、歩いて暮らせる街の要素がある状況に変化はありません。

しかし、店舗数や年間商品販売額が減少し、空家が点在する状況もあり、また今後は、人口が減少していくことが予測されていることから、これまで以上に、拠点となる駅・商店街・公園・閑静な住宅地の魅力づくりに注力することが必要です。

交通環境については、補助26号線の完成後による変化を見据え、補助26号線への地区内の通過交通の転換を図るとともに、歩行者と自転車が共存できるまちを目指して、自転車走行環境整備を進めるなど、安全・安心して暮らせる交通環境が形成されるような取組を進めることが必要です。

また、少子高齢化に対応すべく、子育て世代が安心して暮らせる環境づくりや高齢福祉機能の充実を図るとともに、地区の減災の取組や避難所の機能充実、学大商店街ルールに基づく取組強化や住民が主体となった街づくりをより一層、推進していくことが必要です。

当初計画

当初計画からの変更点

※下線部：「(1) まちづくりを取り巻く状況の変化への対応」と「(2) これまでの取組実績と効果」を踏まえて見直した。

1. 駅・交流広場等の 一体的整備	1. 駅・交流空間等の顔づくり 学芸大学駅は、人々が集まり交流する「街のシンボル（顔）」です。東急東横線高架橋や耐震補強工事、高架下店舗工事や駅前の舗装工事などのハード整備は終了したことから、交流空間としてのあり方の検討や放置自転車対策など、ソフト面での取組を主とした顔づくりに取り組めます。
2. 駅周辺自転車対策	2. 駅周辺自転車対策 歩行者と自転車利用者の共存に向け、商店街を中心に取組んできた「押しちやり」をはじめとする各種自転車対策をさらに推し進めるとともに、自転車走行環境の整備にも取り組めます。
3. 安全・安心・快適な 歩行ネットワークの 形成	3. 安全・安心・快適な歩行ネットワークの形成 交通安全対策を段階的に進め、交通事故減少などの効果もみられることから、今後も子育て世代が暮らしやすい環境づくりや自転車との共存などを念頭に、計画的に交通安全対策を進めていきます。
4. 碑文谷公園の魅力化	4. 碑文谷公園の魅力向上 学大ブランドである碑文谷公園は、地域避難所としても重要な位置づけにあることから、子育て世代や高齢者などの憩いの場として、また、誰もが安全に安心して多目的に利用できる公園としての魅力を向上していきます。
5. 小学校や住区センタ ー、旧六中跡地の福 祉機能等の向上	5. 小学校や住区センター、 <u>スマイルプラザ中央町周辺</u> の福祉機能等の向上 避難所指定のある小学校や住区センターをはじめ、旧六中跡地において開設されたスマイルプラザ中央町周辺は、地域の人々のコミュニティや福祉を支える拠点として、誰もが安全に安心して利用できる施設づくりを進めます。
6. 将来の補助 26 号線 の整備を契機とした 街づくり	6. 補助 26 号線の <u>完成を見据えた街づくり</u> 補助 26 号線の整備が進んでいることから、補助 26 号線への地区内の通過交通の転換や道路整備、沿道まちづくりなど、完成を見据えて取り組んでいきます。
7. 商店街の景観形成	7. 商店街の <u>魅力化</u> 今後、人口減少等により、店舗数や年間商品販売額の更なる減少が危惧されることから、商店街が中心となって、「学大商店街ルール」に基づく取組をより積極的に推進し、地元で愛される魅力的な商店街づくりを進めます。
8. 住民が主体となって 進める街づくり	8. 住民が主体となって進める街づくり 今後、人口減少や少子高齢化により空家の増加や街の活力低下が危惧されることから、住民自らが積極的に街づくりに関わり、創意工夫や連携により、街づくりを活性化させていきます。